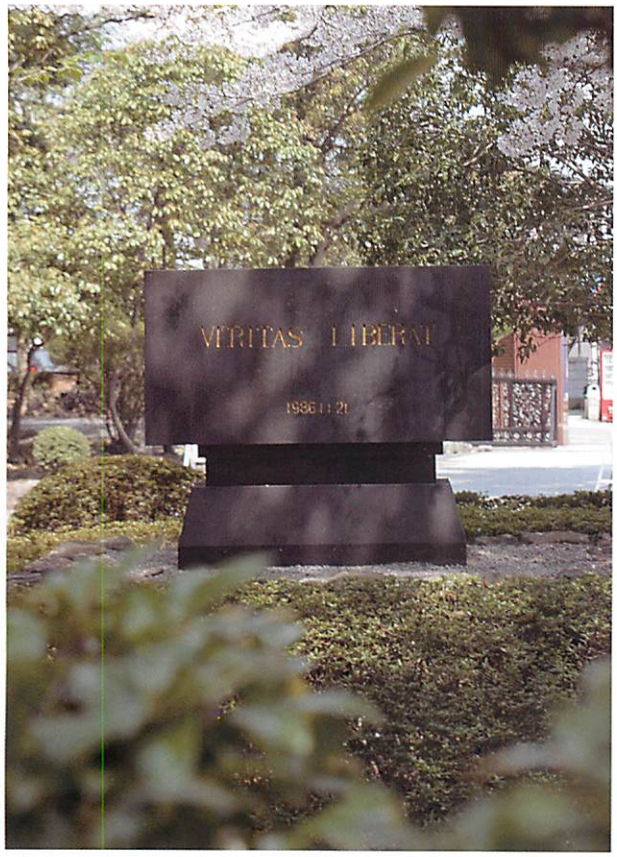
BEPPU UNIVERSITY
令和２年(2020) ３月20日

ARGONAUTES
別府大学図書館報

アルゴノートNo.54

CONTENTS

別府大学附属図書館のあゆみ…… 吉岡　義信
絵本の帯づくり…… 古川　元視
選書ツアー 2019
新元号記念特別企画「令和」
新聞記事アーカイブシステム「KENBUN」を導入
別府大学附属図書館・司書課程共催
図書館見学ツアー 2019 … 佐藤　晋之
2019 年に寄贈された教職員の出版物



別府大学附属図書館のあゆみ

吉　岡　義　信

本学の図書館は、昭和21年別府女学院が開学して以来、昭和42年に旧図書館ができるまで独立した図書館施設を持つことなく校舎の一室を利用した図書室でした。これにより昭和30年代、40年代初期まで学生運動の中で図書館の新設、図書の拡充が叫ばれていたようです。大学史を調べていく中で図書館に関する様々な資料を目にする機会があったので、紹介しておきたい。

まず別府女子専門学校について、図書室がどこにあったか不明であるが、女専昇格の際の思い出として以下のように記されている。

「別府女学院専門部から、女子専門学校に昇格、それから別府女子大学、それから現在の別府大学へと。これらの昇格時期に、私は幸か不幸か巡り逢ってしまったのです。二年生になって間もなく、女専に昇格。昇格までの苦労は大へんでした。（中略）今は亡き松本義一教授の自宅から、たくさんの蔵書が運びこまれて分類をし、見出しを作製するなど図書館の充実のために、徹夜の日々も続きました。昇格の第一条件が図書館の充実だったようです。毎日のように文部省より調査員が見えたり、接待等に学長さんは大変でした。」（大観逸子（旧姓衛藤、女専２回生）「ルーツを辿る「思い出すままに」」（『真理と自由　佐藤義詮先生十回忌記念』）

また図書購入費用捻出のためダンスパーティーを開催し、益金にて哲学書を購入したという記事も見られる。

「図書室も皆様の御利用に報い得る様大いに拡充される一方であるが、新購入の書籍を御紹介する。７月19日開催の図書拡充を目的としたダンスパーティーの利益金にて図書（哲学書）購入。加藤教授相当量（法律・経済）寄贈。佐藤校長は数度に渉って各方面の書物及雑誌を寄贈下さった。猶今後暫くは、図書室充実整理の為、貸出は不可能なる予定である。貸出してある方は至急返却を願いたい」（「図書室消息」『別府女専新聞』第10号　昭和23年９月）

別府女子大学より別府大学となった昭和29年、当時の図書館（室）が調理実習室に改築（場所は不明）されたことにより、新たに図書館を建設する必要性が生じていたようである。

「旧図書館を改築中であった調理実習室は今年度入学式と同時に完成される予定であったのが、去る６月末ようやく落成の運びとなり７月の始めから生活科学生によって使用されはじめた。」（「調理実習室完成」『別府大学新聞』２号　昭和29年９月）

「商科の教室と図書館は本年度中に建築される予定である。図書館は工費坪当り約３、４万円で、40坪程度のものが本館と新館の間に近代的な姿を表わし」（「図書館など今年度中に建築か」『同』２号）とある。

「昨年度から多くの批判をあびていた図書費問題をめぐって、如何に使用しているか？等の調査を編集部は行ったが確定的な数字を得ず、学生の期待にはそえなかったが調査結果は以下の通りである。（中略）又今年度から図書館運営の向上をはかるため今年４月に図書運営委員会を設けた。この組織は委員長を学長に委員を文学部１名、短大１名、自然科学関係１名、高校１名と司書から

なっており昨年度の運営より一歩上回る事と期待されている。」(「図書費をめぐって図書館運営委員会設立」『同』第4号　昭和30年6月)

「又昨年度から問題となっていた図書館の新築案は現在の講堂と本館の間に便所一棟を含む綜合計画をたて、同様に私立学校振興会と接渉中だが前者同様決定的な線か解からない」(「生活科教室落成、校舎、図書館新築案内定か」『同』第4号　昭和30年6月)

図書館委員會發足
図書の充実を目覚して
今まで種々批判されていた図書館問題も去る六月一日次の如き委員会の発足をもつて一段落した。
館長　大谷顕太郎
事務長　山田泰治
委員　山本平一郎、土屋工、二宮淳一郎、甲斐信一
(敬称省略)
昭和二十五年初代館長として首藤教授が就任、二十六年第二代館長として、二十七年宮崎大に転任した津田教授が就任、同時に文部省司書講習を受講した山田司書が事務方面を担当していた。津田教授転任後は正式館長を置かず、学内では学長が、外部に対しては事務長が館長を兼務するという漠然としたものであった。それが今度の委員会設置となったのである。

「今まで種々批判されていた図書館問題も去る6月1日次の如き委員会の発足をもって一段落した。館長大谷顕太郎　事務長山田泰治　山本平一郎、土屋工、二宮淳一郎、甲斐信一(敬称省略)昭和25年初代館長として首藤教授が就任、26年第二代館長として、27年宮崎大に転任した津田教授が就任。同時に文部省司書講習を受講した山田司書が事務方面を担当していた。津田教授転任後は正式館長を置かず、学内では学長が、外部に対しては事務長が館長を兼務するという漠然としたものであった。それが今度の委員会設置となったのである。」(「図書館委員会發足　図書の充実を目覚して」『同』第5号　昭和30年7月)

新刊圖書おめみえか
圖書運営委員会開かる
私大協会側と慎重
学生健康保険制度

「去る10月25日、図書運営委員会が開かれ、その結果、今年中に新刊図書の購入が実現することになった。今までは図書運営委員会とは名のみで、発足してより半年以上も経ったのに何の活動もみられず、過去のそれのように、有名無実の存在として立ち消えになるのではないかと学生間で心配されていたものである。今年4月、図書運営委員会が発足して以来、未だに新刊図書の購入はなく、何のための図書運営委員会か、図書費のゆくえは、などの不審の声が学生間にあがっていたが、去る10月25日図書運営委員会が開かれ、大谷教授(図書館長)と各関係者の間で、学生のために必要な図書、教授用研究書などを少額な予算で如何にして購入するか、又それの実行というような事を中心に討議されたが、結局次の五部門、即ち一般教養書、国文学書、生活科関係書、商科関係書に分たれ、それに関係のある諸先生が部門別に書店に申込み、購入する事になった。また少額な予算を等分して購入するのであるが、年内には図書館におめみえすることになっており、卒業生の論文はもとより、レポートその他に大いに利用されることになろう。

この活動によって今までの利用度の少い暗い図書館は、すっかりその内容をとゝのえることになり新しい姿で出発する訳である。本学図書館の沿革は大体次の通りである。

昭和25年4月に大学設置の認可、図書館長に首藤教授、翌26年津田館長、山田司書が就任されたが、従来の蔵書については分類目録の関係書類が全然無くその数もはっきりつかめぬ状態であった。27年附属高校に自由ケ丘文庫が設定され、月額1万円の学生負担金が図書委員を経て直接図書館に納入され、それで基本図書、教養書などを購入し、五ケ年間に千冊目標の自由ケ丘文庫も未完成のうちにわずか二百冊の図書で28年に消滅してしまったが、現在大学生、高校生の間で使用している図書はこの文庫が最も多く利用されている。又これに並んで27年7月大学自治会がルボア文庫を設定し、将来有力な存在となる事が期待され、28年学生数の増加につれてだんだん充実してきた。昭和29年4月短期大学部の設置で学生数は従来の数倍に増加され、図書館も改造し図書の大部分は書庫に投入されたが書庫とは名のみ、書架も満足になくたゞ積み置くだけのもので、分類、配架の不可能なのは勿論、図書のいたむのもはなはだしい状態であった。又一時閲覧室の狭い理由で高校生の閲覧は停止と云う状態であったが、これに対する高校側の苦情から、博物館の二階に移転すると云う話もあったが実現せず、現在の場所に移転したが、保育科の階下ある

批判される図書館問題
ウヤムヤの先年度予算
文部省科学研究費
生物学教室へ
當然行き過ぎダ!!
博物館設置料に不滿の聲
國際觀

ため静かで物音一つしないはずの図書館も、オルガンや足音の騒音で研究はおろか讀書も落着いて出来ない状態である。又29年4月から大学では年額六百円の図書費を会計課に納入しているが、目立った図書の購入はなかった。これについて学生自治会は、二重負担は不合理として、ルボア文庫の廃止を決議、こゝにまた自由ケ丘文庫に続いてルボア文庫は消滅するに至り図書館も昭和26年の発足当時の有様となってしまった。このような状態の現在、全学生の間から図書を充実せよの声が大きくなり、ようやく本年図書運営委員会を設け大谷図書館長、各関係教授等を中心に図書館充実を目的とし活動を開始した。この委員会も今後の活躍が大いに期待されている。」(「新刊圖書おめみえか　圖書運営委員会開かる」『同』7号　昭和30年12月)

同様の記事は「批判される図書館問題　ウヤムヤの先年度予算」(『同』9号　昭和31年7月)にも見られ、図書運営委員会が開かれるも昭和30年代は学生自治会との間で図書費の問題が取沙汰されており、なかなか解決の糸口が見えない状況であった。また、図書館が保育科の階下にあり騒音に悩まされていたようである。

昭和36年故後藤重巳名誉教授が赴任してこられた時の様子を「今日の本館とほぼ同位置に、L字型に建てられた木造校舎の角(現在の教務課あたり)に所在していた図書室に、館長の川島つゆ教授を訪ねる。図書室とは名ばかり、壁側に書架が数本、中に不揃いの本ばかりが並んでいた。(中略)あれから二十年。新体育館の建設によって取りこわされた木造校舎(一時期大学図書館ともなっていた)を最後に、古い校舎はキャンパスから完全に姿を消した。」(「点描研究室今昔」『別府大学通信』第16号　昭和54年9月)と記しており、当時の図書室が旧1号館の以前に建っていた開学当時からの木造校舎の1階にあったことがわかる。

書物の紹介
英一　加藤
図書アンケート

昭和38年に新聞部が図書アンケートを実施した内容が掲載されている。「新聞部では学生の図書館利用の低率原因を明確にするためにアンケートをとり、その結果をまとめて見た。まず最大の理由は図書施設の不満である。▲本が少ない＝45パーセント(新刊、専門書、参考書など)▲全体的に貧弱である＝33パーセント▲中学、高校、大学別に設置してほしい＝12パーセント▲その他＝8パーセント(静境でありたい。貸出日数が少ないなど)▲良い＝2パーセント前述の加藤先生もおっしゃっていられる様に施設の不備をいっているだけではどうしようもない。我々は現在の蔵書を利用し、学生時代に多くの書物を読んで置きたいものである。」(『別府大学新聞』第1号　昭和38年6月)

この記事に合わせて故加藤一英教授(当時職員)が「現在の図書館はその設備に於ても、蔵書数に於ても又その内容においても、皆さんの要求に到底応じ得ない実情にあります。この点私共としては、非常に心苦しく思っています。しかし、それはそれとして、たとえ貧弱ではあっても、現在の図書館を愛し、百パーセント活用し、有意義なそして実り多き学生生活を送られることを、心から希って止まないものであります。」と書いている。

図書館が
欲しい!
野尻君の死去を悼む

「現在、学生が最も欲している設備の一つに図書館がある。現状では落着いて本を読める場所もないし、自分の読みたいと思う本もなかなか手にはいらない次第である。「研究室の利用を」といわれる先生もおられるが、やはり気軽に使用できるという点では、図書館の必

要性を痛切にかんじる。また、新入生に研究室の利用をすすめたところでしりごみする学生もすくなくないと思う。新入生は、入学して日も浅く、よく構内事情を知っていないせいか、図書館が休館されていることを知らない人が多いようであるが時が経過して、構内事情にも明るくなってくると、図書館のない不自由さに、不満の声が高まってくることは必須である。学生にとって、どれほど多くの図書があっても多すぎるということはない。しかし、今、学生が望んでいることは、どんなに粗末なものでも良いから、図書館がほしいのだ。学校当局に一刻も早く考えてほしいものである。」(「図書館がほしい！」『別府大学新聞』第7号　昭和40年5月)

待たれる図書館
「文化会館」年末に完成
(初夢)逝去

「現在建設中の文化会館は総工費8,300万円で主に大学校舎として使用されるが、その一部に図書館、購買部が配置され、完成は41年12月の予定である。」(「待たれる図書館「文化会館」年末に完成」『同』36号　昭和41年10月)

※『別府大学新聞』は昭和35年1月発行の第21号までと、38年6月発行の第1号から8号までを通算し第29号（昭和40年6月）と号数を変更している。

「本学は、本館と生活科実習教室の間、旧木造校舎のあとに、図書館を含む、鉄筋四階建総面積2418.9平方米の新校舎の建設をおこなう。総工費は4,790万円、6月着工、41年3月完成予定。」(「新校舎建設ニュース」『別府大学ニュース　アルゴノート』No.4（1966年）

「本年10月落成予定の文化会館中に図書館も開設のはこびになっておりますので開設の時期には直に新設備に移行出来る様な態勢を考え左の点に留意し着手しております。1、書架　鉄製書架1連6個　3連1個備付けを終り順次木製書架と取りかえてゆく予定です。2、図書　予算も本年度はかなりの増額を認可されましたので最も重要にして不足の甚だしい基本図書中本年は辞典類購入にまず重点をおいた。教官学生の充分な御利用をお待ちしています。」(「41年度図書館運営」『同』No.5（1966年）

「文化会館も落成して図書館ができたが図書内容充実のための第一段階として五百万円の予算があがっている。」(「本学にみる未来像」『別府大学新聞』第38号　昭和42年5月)

本学の誇り、新築図書館

「昨年8月20日に完成した図書館の新築披露が行われた。この記念行事として①近代文学講演会を第一閲覧室で②近代文学展を第二閲覧室で開催」したとある。また図書館の概要として「総大理石張り、タイル張り　二、三階　書庫閲覧室等530㎡　蔵書約3万冊　座席数250以上」とある（「図書館便り　本学の誇り、新築図書館　蔵書3万冊・座席数250」『別府大学学園通信　アルゴノート』No.7（1968年）

「図書館の改善について図書館委員会において検討された。A図書購入費の増額については新年度予算申請として法人に強く要望する。B開館時間の延長については、大学付属図書館としては、閲覧時間は当然延長されるべきと考えられるが、当面の処理としては、学生とさらに接渉を深めたい。C大学、高校の分離については、学園全体の中央図書館的性格を持たせたいので、当分の間現状のままとしたい。」(「学園民主化の経過報告と今後の方針　図書館の改善」(『別府大学新聞』第42号（昭和44年2月）

「6月図書の大移動が行われた。建築以来15年にもなろうとしている図書館にとって手ぜまなのはしかたがないが、昨今のいちじるしい図書の増加はついに館内書庫だけでは納められなくなってしまい、閲覧室にも書架を組んで図書を配架してきた。最近計算したところ二階閲覧室書架スペー

スではブルドーザー２台と同じ重量があることがわかり、建築基準の点からも問題があるとのことで大移動を行った。少し遠いが三号館地下に書庫を設けここに紀要、学術雑誌のバックナンバー類を移転させ、あいた三階書庫へ二階から洋書をあげ二階閲覧室と書庫は和書一本にした。これで問題の二階閲覧室はブルドーザー１台分まで減量することができ配置も広くしたので一応安心できるようになった。しかし現在の配架でも余裕がないのに近い将来満杯になってしまうことになるので新しい図書館の建築が望まれている。

今回の作業は図書量の少ない三階閲覧室の参考図書がわずかな変更ですんだだけで他のすべての図書が移動するという大仕事だった。それも書架の解体移動をともなうため専門の業者にも来てもらい、アルバイト学生なども加え、準備、移動、整備と約一週間をかけた大移動だった。」（「図書館だより」『別府大学通信』第18号（昭和55年９月）

別府大学通信

キャンパス近代化の青写真

充実する図書館・研究室

高層のシンボル棟も

『別府大学通信』第25号（昭和59年４月）には充実する新しい図書館棟青写真の記事が掲載されている。これによると、地下１階地上７階で地下に書庫、2、3、4階が図書館、他は管理室、研究室等となっているが、現在の学生数、蔵書数から将来的に当初の計画案ではスペースが足りなくなるとの図書館側の意見で管理、研究室は別棟にする案も考えられるとしている。

別府大学通信

図書館・研究・管理棟を建設

—佐藤学園創立80年記念—

セミクラシック6階建て

キャンパスの新しい顔

「60年11月着手、1カ年の工期で61年11月完工する。なかでも図書館は、書庫収容能力が閉架図書。95,200冊、開架図書33,600冊、計128,800冊となる。また閲覧席も124席で、このほか軽読書コーナー、貴重図書室、研究閲覧室、多目的室が併設され、いままでに比べて図書館としての機能が倍増される。」（「図書館・研究室・管理棟を建設」『同』第28号（昭和60年10月）

別府大学通信

80年を迎えた佐藤学園

三代「新しい顔」本館も落成

「最近では紀要や学術雑誌の閲覧希望も多くなった。この場合館員が三号館の書庫へ取りに行っているが勉強熱心な卒業論文作製中の学生などの場合、希望冊数も多い。その時は館員もいっそう重さがこたえるというものだ。特に40年代を前後とする時代狭い校地のうちで、既存の木造校舎を廃棄し、新ビルの工事の進む過程では、教室さえ不足する状況のもと、プレハブ的な応急図書室を建て急場をしのぐ有様が続いた。42年８月本館ビルの完成に伴って翌年３月その２階、３階部分が図書館施設となって利用が始められた。「別府大学・学園通信」第７号は「本学の誇り・新設図書館」「蔵書３万冊・座席250」と報じたが、まだ大学図書館としては十分ではなかったものの、それまでの状況からすれば画期的な進展であった。しかし、この施設も数年を経ずして飽和状態となり本格的な図書館の建設が望まれるようになった。学園創立80周年記念事業として61年11月現在の図書館が完成した。」（『同』30号（昭和61年11月）

平成４（1992）年10月に短期大学部の大分校舎が開学したのに伴い、インテリジェントセンター（図書室）が設けられ平成28年度まで続いた。平成９（1997）年４月に31号館が竣工、大学院図書室が設けられた。平成20（2008）年２号館が竣工し、書庫の狭隘化と増加する蔵書の対策として１階の一部に閉架書庫が設けられた。平成21（2009）年２月に国際経営学部棟（39号館）が竣工、その１階にラーニングコモンズ（図書室）が設けられ現在に至っている。

（図書館事務部次長）

絵本の帯づくり

別府大学短期大学部初等教育科
教授　古　川　元　視

OECD生徒の学習到達度調査2018年調査（PISA2018）によると、数学的リテラシー及び科学的リテラシーは世界トップクラスを維持している。一方、パソコン使用調査だったことも要因しているが、読解力については2015年の前回調査よりも低下している。読解力の課題としては、テキストから情報を探し出す力や自分の考えを他者に伝わるように根拠を示して説明する力などが挙げられている。また、2019年度「学校読書調査」の結果を見ると残念なことに高校生の約半数は、不読者である。

小学校国語科の現行の学習指導要領において、アクティブ・ラーニングの側面から基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探求することができる能力を身に付けることができるよう紹介、説明、討論などの言語活動が示された。従来の授業のように教材文を詳細に読むことだけに特化するような授業からの脱却が求められている。令和２年度からは新学習指導要領の全面実施となり、言語活動を通して国語科の能力を育成するという関係は踏襲されている。

このようなことから、小学校教諭を目指す学生が在籍する国語（書写を含む）という授業において、小学校で実際に実施されている「帯を作る」という言語活動の授業を展開した。「帯を作る」という言語活動は、本を読んで紹介をするという方法の一つである。ほとんどの学生は、言語活動を行ったという記憶がなかった。初めて「本の帯を作り、本の魅力の紹介をする」という言語活動に挑戦することになった。

国語科でのアクティブ・ラーニングの授業のイメージが湧くように、学習過程を明確にした授業を展開するように努めた。単元の一次では「キャッチコピーや粗筋など紹介の要素を入れて本の帯を作り、大学の図書館に飾ろう」という学習課題を設定し、ゴールを明確にした。二次では、紹介の要素の説明、粗筋の書き方などを指導し、絵本を読み、実際に帯を作らせた。三次では、出来上がった帯を相互評価及び自己評価をさせ、単元で学んだことを総括させた。国語科指導法とも重なるが、従来のように１時間１時間をどのように授業を展開するのかということのみに終始するのではなく、十数時間という一つのまとまりの単元をどのように作るのかということを児童と一緒に作り上げることが必要だ。教員になった時に困らないように、小学校でのアクティブ・ラーニングの授業のやり方を大学の授業においても行うようにしている。ここでは、学習課題を設定し、帯を作り、パブリックな場に飾るという単元だ。大学の図書館に展示をしたもらったのは、相手意識を明確に持ち、社会性を育むためである。作成した帯は、実際に学生が教壇に立った時の児童のモデルになるであろう。

アクティブ・ラーニングを踏まえた国語科の授

業を展開する時には、学校図書館との連携が必要になってくる。大学においては大学図書館との連携である。今後も、学生が教員になった際に困らぬよう大学図書館との連携を図る授業を工夫するとともに、多様な言語活動を取り入れていきたい。

帯を作成した学生の感想

○　本の内容のキーワードを見つけ要約する力が必要だと感じました。帯作りで一番学んだことは、他者を意識して作品を作ることの難しさです。本を読みたくなるようなフォント、デザインがどのようなものかを考える必要がありました。みんなが作成した帯が上手で、かつ、面白かったです。四月から教員になりますが、言語活動で取り入れたいと思います。

○　作者のメッセージがたくさんつまった絵本だったので、キャッチコピーにはそれが伝わるようなキーワードを選択しました。目に入りやすそうな色とフォントも工夫しました。使う色を２色に絞って統一性がでるようにしました。実際に子どもたちに作成させる時には、どの言葉を選ぶのか、その中でも一番伝えたい言葉は何なのかというキーワードの選択についての声かけが大切だと考えました。

選書ツアー 2019

学生が図書館に置きたい本を選ぶ、「選書ツアー」を 2019 年 11 月 13 日に大分市内の書店で実施しました。2018 年度は都合により実施できませんでしたが、今回で 10 回目となります。定員 20 名に対し参加者は 4 名でしたが、19 冊の図書が選ばれ学生による紹介文の POP を添えて 1 階閲覧室に展示しました。

学生が選んだ図書のリストは以下のとおりです。

書　　名	著者名	出版社	出版年
今だけのあの子	芦沢　　央	東京創元社	2017.4
本屋さんで待ちあわせ	三浦しをん	大和書房	2019.2
ヒッキーヒッキーシェイク	津原　泰水	早川書房	2019.6
世界の美しい博物館	パイインターナショナル	パイ・インターナショナル	2018.7
PowerPoint2019 基本技	稲村　暢子	技術評論社	2019.9
自分の価値を最大にするハーバードの心理学講義	ブライアン　R.リトル	大和書房	2016.7
サイコパスの手帖	春日　武彦	洋泉社	2019.6
お砂糖とスパイスと爆発的な何か	北村　紗衣（著）	書肆侃侃房	2019.6
大きな鳥にさらわれないよう	川上　弘美	講談社	2016.4
グローバル・バリューチェーン	猪俣　哲史	日本経済新聞出版社	2019.6
元海外駐在エンジニアが学んだ“使える”ビジネス英語	鈴木　善行	秀和システム	2019.7
総合英語 FACTBOOK これからの英文法	大西　泰斗	桐原書店	2017.6
イラストで読むギリシア神話の神々	杉全美帆子	河出書房新社	2017.2
世界の本屋さんめぐり	ナカムラ クニオ	産業編集センター	2019.10

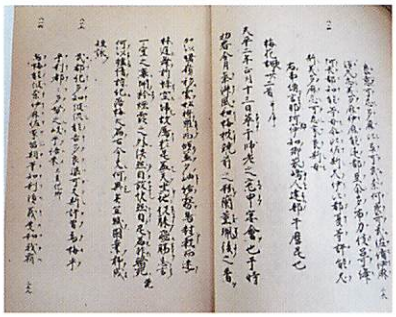
書　　名	著者名	出版社	出版年
せかいいちのねこ	ヒグチ　ユウコ	白泉社	2015.11
プリズナー トレーニング 実戦!!! スピード＆瞬発力編	ポール・ウェイド	CCC メディアハウス	2019.11
読む事典シルクロードの世界	シルクロード検定実行委員会	NHK 出版	2019.2
ネイチャー・デザイン	ヴィクショナリー	グラフィック社	2019.8
鏡花人形	吉田　　良	河出書房新社	2018.6

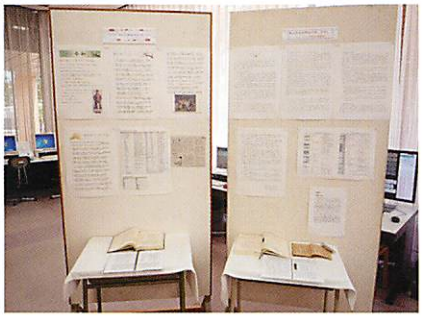
新元号記念特別企画「令和」

元号が「令和」に改元されたのに伴い、図書館１階で特別企画展示を行いました。

改元に伴う関連の新聞記事やコピー、太宰府市の観光案内図、パンフレット、図書館所蔵の『西本願寺本萬葉集』（古典文庫）の「梅花の歌、32首の序文」の箇所などを展示、利用者が興味深く見ていました。

また、２階閲覧室の展示ケースには元暦１（1184）年に校合されたという、『元暦万葉集』の複製本も展示しました。

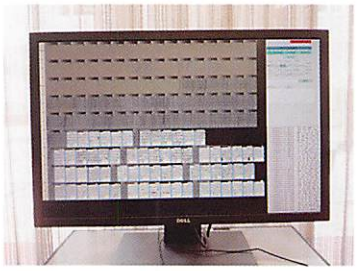


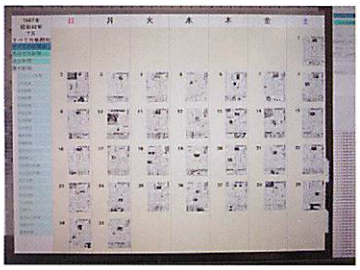


新聞記事アーカイブシステム「KENBUN」を導入

１階閲覧室に新聞記事アーカイブシステム「KENBUN」を導入しました。「KENBUN」は大分県立図書館が所蔵する県内発行の地方紙のマイクロフィルムを大分大学との協同でデジタル化したもので新聞紙面約 16 万ページを見ることが出来ます。収録新聞タイトルは以下のとおりです。

『大分合同新聞』　1942 年 4 月～ 1967 年 12 月
『大 分 新 聞』　1898 年 7 月～ 1899 年 12 月
　　1918 年 1 月～ 1941 年 10 月
『豊 州 新 報』　1926 年 12 月～ 1942 年 3 月
『臼 杵 新 聞』　1901 年 5 月～ 1912 年 12 月
『日 田 新 報』　1893 年～ 1904 年
『田 舎 新 聞』　1876 年 12 月～ 1881 年 12 月
『両 豊 新 聞』　1935 年 1 月～ 1938 年 10 月





別府大学附属図書館・司書課程共催 図書館見学ツアー 2019

司書課程講師　佐　藤　晋　之

2019年11月17日、司書課程と附属図書館共催による第11回図書館見学ツアーを行いました。学生15名、教職員8名で北九州学術研究都市学術情報センター図書室（以下、学術情報センター）を見学しました。学術情報センターは、適度な緑に囲まれ、電気自動車の急速充電器も整備されており、環境に配慮された先進的なイメージを感じられる施設でした。また、1階から2階へはエレベーターが完備され、バリアフリーにも対応していました。

学術情報センターは丸善雄松堂が業務委託を請け負って運営されています。今回の案内役である丸善雄松堂の山本信一氏は、別府大学司書講習において司書資格を取得されています。きめ細やかなサービス精神と心温まるホスピタリティ、溢れる好奇心で最大限の準備をして私たちを出迎えてくれました。その対応は、司書という仕事は「本好き」なだけではなく「人好き」であることが大切であるということを実感させられるものでした。

学術情報センターの特徴は、理工学分野に特化した「専門図書室」と人文社会学や社会科学分野を広く網羅した「一般図書室」が併設されていることです。蔵書数は約16万冊（2019年3月末現在）であり、利用者の需要を捉えた選書や様々な利用目的に対応した閲覧スペース（331席）が整備されていました。専門図書室は、早稲田大学と北九州市立大学、九州工業大学の3大学の学生及び教職員が利用することを目的としています。中高生専用デスクや個人学習デスク、ラーニングコモンズ等の利用者の用途に応じた学習環境への配慮を感じました。一般図書室は、AV資料閲覧スペースや子供向け図書コーナー、幼児向け学習デスク等があり、家族連れでも利用しやすい施設作りがなされていました。

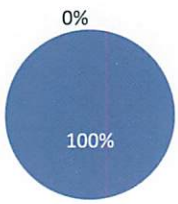
学術情報センターの見学後、門司港レトロ地区を自由見学しました。参加者らは、自由見学中に図書館見学を振り返りながら、有意義な時間を過ごしていました。

参加した学生らは、専門図書室と一般図書室が併設された図書室に強い関心を示すと共に、山本氏の熱意ある対応に感銘を受けている様子でした。先進的な施設とキャラクター性のある司書、利用者目線で無駄がない蔵書という図書館に必要な施設・ヒト・モノの重要性を学ぶことができました。見学後の授業では、実際に図書館やそこで働く司書の姿を見ることで、見学前よりも意欲的に学ぶ気持ちになったという言葉がありました。また、門司港レトロ地区での自由見学についても、図書館見学のみだと知識の詰め込みになるが、自由見学の時間に友人らと図書館見学のフィードバックができ、自分にはない見解を交換できたという言葉がありました。

今回の図書館見学ツアーは、参加者の学習意欲の向上や図書館に関する知識獲得、司書の重要性の再認識という意味で大変有意義な時間となりました。次回開催に対する要望もあることから、今回の図書館見学ツアーの改善点を改めて見直し、司書養成の糧になる企画を検討する予定です。

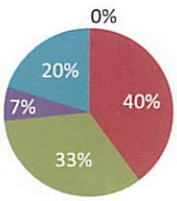
1. 司書課程の講義を受けていますか

	回答数	割合
はい	15	100%
いいえ	0	



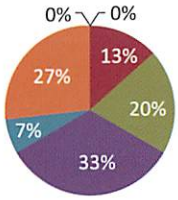
2. 普段、公共図書館や他大学図書館の利用頻度はどれくらいですか

	回答数	割合
頻繁に利用する	0	
時々利用する	6	40%
試験・レポートで必要な時のみ利用する	5	33%
ほとんど利用しない	1	7%
まったく利用しない	3	20%



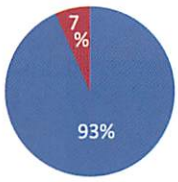
3. 別府大学附属図書館の利用頻度はどれくらいですか

	回答数	割合
月に１度程度	0	
２・３週間に１度程度	2	13%
１週間に１度程度	3	20%
２・３日に１度程度	5	33%
毎日利用する	1	７%
試験・レポートで必要な時のみ利用する	4	27%
まったく利用しない	0	



4. ツアーの開催時期についてどう感じましたか

	回答数	割合
良　い	14	93%
悪　い	1	７%

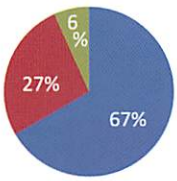


5. 4の答えの理由をお書きください

・暑すぎず、寒すぎずちょうど良い気候で心地よく参加することができたため
・史学科の一部は研究発表などが重なり参加を断念した人が数名いたため
・ある程度知識を持った段階で臨めるから
・石垣祭の終りから何日かたっているため参加しやすい
・暑くもなく寒くもなくちょうど良い時期
・暑すぎず寒すぎない時期だったから
・秋晴れの時期で素晴らしかった
・授業ともかぶることなく、11月の中旬で気候もよく問題なかったから
・学祭も終わって落ち着いた時期にありよかった
・試験もまだないので良かったと思います
・日頃、忙しい毎日を送っているので、予定を入れ易い日曜日というのが良かったと思う
・非常に良いと感じた。暑すぎず寒すぎず

6. ツアーのタイムスケジュールについてどう感じましたか

	回答数	割合
良　い	10	67%
悪　い	4	27%
無回答	1	６%

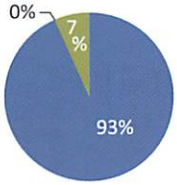


7. 6の答えの理由をお書きください

・ハードスケジュールではなく、時間にもゆとりがあって充実していたため
・手短でよい。朝が少し早く感じるが
・時間配分はほぼ申し分なかったから
・前回のツアーよりもとても良かった。ゆっくりと昼食を食べられたことが良かった
・つめすぐでいるわけでもなく、帰りの時間などもちょうど良かった。自由時間があったのが良かった
・ゆっくり昼食を食べることができたから
・もう少し増やして欲しかったです（時間を）
・あわてることもなく、ゆとりを持てたから
・お泊りでいきたい
・もう少し自由時間が欲しかったです
・早めに帰宅できてよかったです
・もう少し見学の時間を増やしてもいいと思います
・全体的なスケジュールがバランス良く組まれていて良いと思った
・もう少し、あと１時間位時間があったらなと感じた。キツキツ感が少しだけ感じとれた。ゆっくりだったらと思う

8. ツアーの見学先についてどう感じましたか

	回答数	割合
良　い	14	93%
悪　い	0	
無回答	1	７%

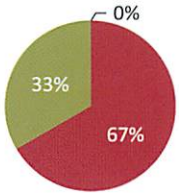


9. 8の答えの理由をお書きください

・ツアーの見学先の山本さんが丁寧に説明して下さったため
・半分くらい観光でしたね
・生涯学習の場としての機能しており、幅広い人が利用できるよう考えられているから
・資料の管理の効率化を図った場だと感じたから
・自分ではいくことのない場所だった為
・とても細かいところまで考えられていて、見学していて楽しかった。別府でも導入すべき
・一般図書館と専門図書館が一緒になっているところに行ったのは初めてで新鮮だった
・学研都市の図書室を含め門司港も良かったです
・図書館での見学と合わせて、楽しめるところにも行けて両方楽しめた
・自分の住んでいる地域の図書館にはない特徴があったから
・わかりやすい説明でした
・最先端の図書館という感じで面白かったです
・普段あまり見ることのできない県外の図書館の様子を見ることが出来て良かったから
・学術情報センター図書館に行ったのは良かったが、もう少しゆとりのある時間が必要だと感じた、図書館に見合った時間配分が必要

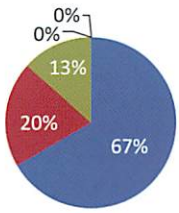
10. 見学時間はどうでしたか（学術情報センター）

	回答数	割合
長　い	0	
ちょうど良い	10	67%
短　い	5	33%



11. 引率教職員の対応はどう感じましたか。理由もお書きください

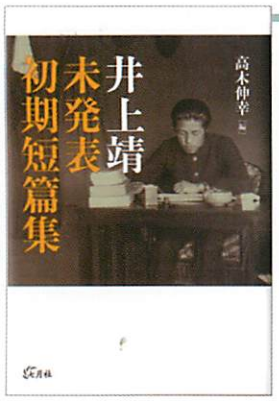
	回答数	割合
満　足	10	67%
おおむね満足	3	20%
普　通	2	13%
やや不満	0	
不　満	0	



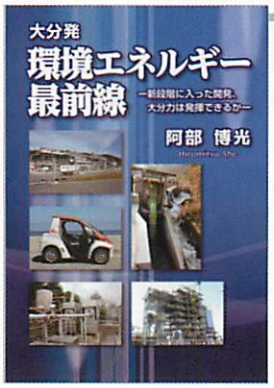
12. 見学ツアー全体を通しての意見・感想をお書きください。（見学に行きたい図書館、改善点など）

・タイムスケジュール通りの日程で内容も充実していたため、非常に良かった。
貴重な経験となりました。引率の先生や図書館のスタッフの方々に本当に感謝しています。図書館見学ツアーを企画・運営して頂いた皆様ありがとうございました。また機会があれば是非参加したいです。
・図書館見学の時間はもう少し長くても良いと感じるほど興味深い場所だった。
昼食時の門司港での自由行動はとても良いと感じた。各々が意義ある活動になったのではないだろうか。
・専門図書館という身近にない知識としてか知らない図書館を見学できてよかったと思った。
・年に２度（前・後期）ほど行きたい。また図書館を自由に見学する時間を増やしてほしい。
・北九州市立大学の図書館に行ってみたい。人数などもちょうど良くて楽しかったです。
・前回と比べてゆとりがあるタイムスケジュールだったのが良かった。
・すごく良かったです。
・学術情報センターには１度行きたいと思っていたので、ガイドありで分かりやすかったです。学習と楽しみの両方を交えていて、過去最高に見学ツアーに参加したという感じがします。参加して本当に良かったです。教員と職員が両方引率してくれて安心感が強くて良かったです。
・イルミネーションまでみたかった。とても楽しかったので良かったです。長崎の平戸図書館いいですよ。お泊りでいきたいので考えててもらいたいです。
・とても楽しかったです。
・もう少し見学時間が長めだといいなと思いました。
・全体的に楽しかったです。ただ、見学の時にゆっくり見えない時が何度かあったので見学の時間を増やすか、もう一つ別の図書館に行くのもいいと思います。
・県外の図書館の様子をみることが出来とても勉強になりました。
・来年は武雄図書館に行ってみたい。自身がそういう経営的な側面に興味がある。ぜひとも！！

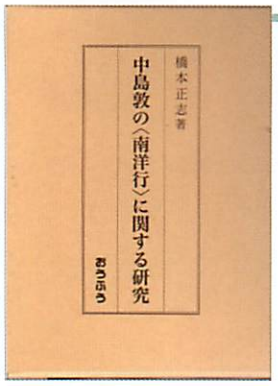
2019年に寄贈された教職員の出版物（図書館受入分）



『井上靖未発表初期短編集』
高木　伸幸編（文学部国際言語・文化学科教授）
七月社　2019.3



『大分発環境エネルギー最前線
—新段階に入った開発、
大分力は発揮できるか—』
阿部　博光著
（国際経営学部国際経営学科教授）
大分合同新聞社　2019.1



『中島敦の＜南洋行＞に関する研究』
橋本　正志著（文学部国際言語・文化学科准教授）
おうふう　2016.9

『新版食物アレルギーの栄養指導』
今井　孝成・高松　伸枝（食物栄養科学部食物栄養学科教授）・林　典子編
医歯薬出版　2018.8

『日本語教育へのいざない
「日本語を教えるということ」』
広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座編
凡人社　2019.6
Section4 Chapter3「言語と社会」
篠崎　大司（文学部国際言語・文化学科准教授）